

4月メディア総局長定例記者会見要旨

(1) 新年度にあたって (正籐メディア総局長)

4月4日から新年度番組が始まった。地上波は42%の改定を行い、現在各現場が、編成や番組の定着に向けて、さまざまな取り組みを行っているところだ。初めて土曜の夜間にスタートさせた、大型のニュース番組「サタデーウオッチ9」は、週末ということでゆったりとした構成にしており、比較的若い層にも見ていただいている。また夕方6時台に移設した「おかあさんといっしょ」も、母と子に加えて、これまではなかった、お父さん世代にも見られるなど、一定の手応えを感じている。新たな取り組みでは、4月1日にインターネットに接続したテレビ受信機などで利用できる、NHKプラス専用アプリをリリースした。見逃した番組を、テレビの大画面でフルハイビジョン画質でお楽しみいただけるようになり、幼児番組がよく見られるなど、スマホアプリでの視聴とは異なる傾向も見られる。一層の利用拡大や視聴者の方々にとっての利便性向上に力を入れていきたい。そして、「スリムで強靱なNHK」や「新しいNHK」を推進していくため、大規模な組織改正も行った。放送にとどまらず、デジタル、リアルイベントといった多様なサービスを提供していくことで、視聴者の皆様と新たな関係を築いていきたいという思いから、放送総局は「メディア総局」とした。この組織改正では、マーケティング機能を強化するために、新たに「マーケティングセンター」を設置した。これまで同様、質や量、毎日NHKに寄せられる視聴者の皆様からの声に加えて、SNSなどに書き込まれているポジティブ、ネガティブな反応など、幅広く見ていくことで、NHKの番組が世の中にどのように受け入れられているのか、また、いないのか、それぞれについても注視している。この2週間、さまざまなチャレンジを行うことで、多くの声や情報が集まってきている。その声からニーズをつかみ、迅速に見直しを行っている。その積み重ねによって、NHKのコンテンツの価値を実感してもらうということが重要だと、改めて感じている。引き続き、寄せられる声を編成や番組の改善に生かし、視聴者の皆様とともに、新しいNHKを築いていければと思う。

(2) 「君の声が聴きたい」プロジェクト (正籐メディア総局長)

今年度NHKは、子どもをはじめ、誰もがよい未来を享受することを目指したプロジェクトを予定している。視聴者の皆さんの声やニーズに耳を傾け、公共メディアとしての役割を果たす発信を通して、新しいNHKらしさを感じていただけるよう力を尽くす。その一環として、5月、子どもや若者の幸せについて考えるプロジェクト「君の声が聴きたい」を大規模に展開する。2020年のユニセフの調査で、日本の子ども・若者の「精神的幸福度」が先進38か国中、37位という結果となった。もしも若い世代の皆さんが本当に幸せを感じられていないとしたら、それはどうしてなのか、幸せを感じるためには何が必要なのか、リアルな声を聴きその声に寄り添う放送をお届けすることで、答えを見つけていきたいと考えている。プロジェクトの核となるのは、特設サイトや1万人を対象にしたアンケート、取材を通して広く集めた、子どもや若者の声だ。その声に、5月6日から14日までの9日間、多彩なジャンルの40を超える番組が向き合い、さまざまな世代の視聴者にお届けする。

詳細について、担当者よりご説明する。

(以下、担当者)

資料の1枚目にプロジェクト参加番組の一覧を、2枚目以降に番組内容を記載しているのでご覧いただきたい。始まりとなる5月6日、7日の2日間は、「君の声が聴きたい」2DAYSと題して、ゴールデン・プライムタイムにスペシャル編成を展開する。2DAYSの主な番組は先日の取材会で発表したが、今回新たに「真剣10代しゃべり場リターンズ!!」を、2006年以来、16年ぶりに復活して放送することが決まった。コロナ禍などで制限ばかりの思春期を過ごす10代たちが思いをぶつけあう。2日間、多彩な出演者に番組を盛り上げていただく。

2DAYSをきっかけに、14日までを「君の声が聴きたいWEEK」として、ニュースからバラエティ番組まで、さまざまな定時番組が、子ども・若者の声に向き合う。「NHKスペシャル」では、7日

の放送で、1万人の大規模アンケートをもとに、若い世代が描く幸せのカタチについて考える。8日は、中学生のおよそ17人に1人いるとされるヤングケアラーの実態に迫る番組を放送する。8日の「日曜討論」は、野田聖子こども政策担当大臣が出演する予定だ。貧困や虐待、いじめなど、今、日本の子どもたちが直面する課題にどう取り組むのか、若い世代の代表や専門家と議論する。また「明日をまもるナビ」では、防災・復興の視点から子どもや若者の幸せを考える。4月からレギュラー放送中の「阿佐ヶ谷アパートメント」では、アパートの一室を子ども部屋にしたり、昔ながらの子どもの遊びの今をのぞいたり、2日と9日、2週にわたりプロジェクトと連動した放送を行う。ラジオ第1は、若者に人気の番組が参加し、音声ならではの気軽さで若者の声を紹介するほか、中学生が主役の番組「正直アンサーコードモ委員」を8日に放送する。なお、日頃から子どもたちの声を聴き、その声にこたえているEテレの子ども・青少年向けの番組も参加し、若い世代の皆さんが笑顔になる企画をお届けする。9日間の放送を通して、子どもには笑顔、大人には気づきがあふれることを目指していくが、プロジェクトを一過性のもので終わらせず、継続して子どもや若い世代の声を聴き、幸せについて考えていく。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 「沖縄本土復帰50年」プロジェクト (小池副総局長)

今年が沖縄が本土に復帰して50年を迎える節目の年。全国の方々にも「つなぐ未来へ」というキャッチコピーのもと、沖縄に関連するさまざまな番組やイベントをお届けするプロジェクトを始動させる。歴史を見つめる番組をはじめ、今月スタートした連続テレビ小説「ちむどんどん」、さらには、沖縄民謡「島唄」を紹介する音楽番組や、イベントと連動した美術番組など、幅広いジャンルのおよそ20の番組を5月と6月に放送する予定だ。NHKプラスでも、プレイリストを作ってこれらの沖縄関連番組をご覧いただけるようにする。また関連番組情報をまとめた特設HPをオープンした。詳しい番組内容やイベント、HPなどの情報は、お配りした資料をご覧いただきたい。また、地元、沖縄県や九州地方に向けた番組も放送する。沖縄放送局では去年4月から、県内の視聴者のみなさまと共に沖縄の未来を考える番組の集中編成を行ってきた。5月は、沖縄経済の未来をテーマにした番組などを放送する。5月の集中編成からピックアップした4つの番組について、プロジェクトの事務局や担当からご説明する。

(以下、担当者)

まずは、5月15日放送のNHKスペシャル「証言と映像で迫る“沖縄返還全史”」について。戦後最大の外交交渉と言われる「沖縄返還」をめぐるのは、近年、日米双方の外交官や沖縄の指導者への聞き取りの記録が相次いで見つかった。アジアの軍事拠点として沖縄を重視したアメリカ、核兵器を撤去した上で返還させようとした日本、そして、祖国復帰を機に基地の整理縮小を望んでいた沖縄。関係者の肉声からは、領土を取り戻そうとする切実な思いや、冷戦下でのしたたかな戦略などが浮かび上がる。沖縄復帰とは何だったのか。新たな資料や証言、膨大な映像素材から、改めてその全貌に迫る。続いて、5月22日放送のNHKスペシャル「OKINAWA ジャーニー・オブ・ソウル」について。本土復帰からの50年、沖縄からは、ロック、ポップスと、幅広いジャンルで、驚くほど豊かな音楽が生まれた。伝統的な三線と島唄がベースだった沖縄の音楽が、なぜこれほどの多様性とパワーを持つに至ったのか、70年代からの音楽を通じて島の歴史や苦悩を見つめ、その普遍性の源を探る。次に、5月11日放送の『クローズアップ現代「VR時空旅行 1972 沖縄」』について。今回はVRの技術を使った新しい演出で、沖縄返還50年の歴史を知っていただく企画を、45分の拡大スペシャル版として準備している。全国から集まった学生たちが、VRの世界でアバターとなって50年前の沖縄にタイムトラベルし、当時の生活、文化、人々の思いを体験するというものだ。続いて、Eテレから、5月15日放送の「日曜美術館」をご紹介する。「失われたときを求めて～復帰50年琉球の文化の継承～」と題して、東京国立博物館で開かれる「琉球展」の魅力を紹介する。さまざまな苦難により失われた沖縄の文化を未来に向けて復元させようとする芸術家たちの取り組みを描く。これら、沖縄本土復帰50年のプロジェクトに、ご期待いただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

(4) 「シチズンラボ」続々調査中！ (若泉副総局長)

NHKでは、学びを応援するプラットフォームとして、去年6月、「シチズンラボ」を開設した。これは、欧米を中心に広がりを見せる新しい科学の研究手法「シチズンサイエンス」を実践するもので、研究者だけでは解明できなかった科学の疑問について、たくさんの市民が参加することで新たな発見を目指すものだ。NHKでは、「シチズンラボ」に集まる情報を、コンテンツの理解促進とともに科学研究にも役立て、そこから得た知識を社会に還元することを目標にしている。先日スタートした「NHKラーニング」同様、「教育の充実」と「社会への貢献」という公共メディアとしての役割を果たしていく。現在、「シチズンラボ」では、6つのユニークなプロジェクトを始めている。番組とともに、こちらの調査にご期待いただきたい。詳しくは担当者からお伝えする。

(以下、担当者)

特設サイトに、研究中のテーマを掲載している。参加するには、興味ある調査の「参加する」をクリックする。例えば、先月、今月と募集している「動物の利き手大調査」。これは「犬に右利き左利きがあるか」という質問が、ラジオ第1で放送中の番組「子ども科学電話相談室」に寄せられたことがきっかけだった。調査方法は、犬が段差をどちらの手から登るかを観察し投稿する。猫や、ほかの動物も調査中だ。調査結果は、5月7日に総合テレビで放送する特別番組「みんなで解決！子ども科学電話相談」でご紹介する。ほかにも、音楽を聞いての感動は人によって違うのかや、女性の生理についての調査などを行っている。このうち、セミの生態については去年夏から調査をしていて、これまで国や専門の調査機関が行った調査数を大きく上回る、5万件を超えるデータが集まった。中には、これまで「いない」とされていた地域でのセミの報告もあった。セミについては、今年度も引き続き、皆さんからの情報を募集している。シチズンラボの研究に参加することで、日頃見慣れた景色が少し違って見えるきっかけになるかもしれない。調査へのご参加を、お待ちしております。

(詳細は報道資料を参照)

(5) ウクライナ情勢 関連番組・情報提供サイト (正籬メディア総局長)

ロシアによるウクライナへの侵攻が続いている。NHKでは、正午のニュースの放送枠の拡大や、BS1で放送している「キャッチ!世界のトップニュース」を総合で再放送するなど、新年度の編成を一部変更しながら関連情報をお伝えしている。現時点で予定しているこの後の主な番組についてまとめた。資料をご覧ください。ニュースのほかにも、さまざまなジャンルの番組やインターネットサイトで問題の背景を深掘りし、戦争と平和について考えていく。また5月5日には、ウクライナのプロダクションが制作した、子ども向けのアニメも放送する。また、ウクライナの方々に向け、必要な情報を提供するサービスを拡大している。詳しくは担当者からお伝えする。

(以下、担当者)

NHKの国際放送「NHKワールド JAPAN」では、ロシアによるウクライナ侵攻以降、関連するニュースをウクライナ語で提供を始めるなどの取り組みを進めてきた。今回、ウクライナから日本へ避難されている方々に向けて、日本での生活に役立つ情報をウクライナ語で発信するサイトを新たに設ける。サイトの内容は主に3つ。1つは、日本での暮らしの情報。日本のお金の種類や医療機関の受診方法、地震が起きた時の避難方法など、日本で暮らす上で知っておきたい基礎情報をウクライナ語で紹介する。2つ目は、日本語学習のコンテンツ。NHKワールド JAPANがこれまでも提供している「やさしい日本語」などを活用して、日常会話や基本的な文法をウクライナ語で学べるようにする。3つ目は、相談窓口の案内だ。住まいや生活支援について相談できる、自治体のワンストップ窓口や外国人在留支援センターなどをリスト化する。サイトの公開は、25日を予定している。この取り組みが、避難されている方々の暮らしの一助になればと考えている。

(詳細は報道資料を参照)